

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

・ふるさと納税で本当のファンとのつながりを～出張高校生レストラン@三重テラス～

2 取組期間

・平成30年度8月10日（金） 11日（土）

3 取組概要

・高校が休みの日のみ営業の高校生レストラン「まごの店」。オープンから10年以上たつが今も県外から多くの方が訪れている。一度は食べてみたいが、遠くて行けないという方のために、ふるさと納税の返礼品として、伊勢志摩サミットの配偶者プログラムでふるまった限定コースを日本橋三重テラスで提供し、三重県と多気町の食のPRを行う。

4 背景・目的

三重県多気町にある「五桂池ふるさと村」に高校生たちが運営するレストラン「まごの店」がある。同じ多気町にある相可高校の調理クラブに所属する生徒たちが自ら店を切り盛りし、授業のない土曜・日曜・祝日だけオープンしている。レストランは、平成 17 年に完成。それ以前もここ五桂池ふるさと村に小規模なお店を運営していたが、高校生たちをもっと応援しようと町が新たにこの建物を建設。設計は地元の工業高校の生徒が手がけ、店の前のカラフルな絵は、地元の小学生たちによって描かれた。

このレストランをモデルにしたドラマが放送されたこともあり、知名度は全国区となり、地元の方だけでなく、県外からも多くのお客さんが訪れている。

その反面、当町も財政は厳しい状態となっており、建設から 10 年以上経つ今後のまごの店を運営していくにあたって、建て替えも含めた長期的な資金計画・運営計画が必要となっている。

多気町の思い

- ・ 投資的経費をふるさと納税で事業化していきたい
- ・ ふるさと納税を通販ではなく本当のファンとのつながりを作るためのツールとして使いたい
- ・ 食のまちとして発信していきたい
- ・ 高校生レストランが三重県多気町にあることを知っていただきたい

高校の思い

- ・ 高校生レストランまで来ることができない方にも料理を味わってもらう機会が欲しい
- ・ 東京への就職先の開拓
- ・ 多気町をはじめとした県産品を PR したい
- ・ 全国で様々な経験を積みたい

以上のような思いから、町のプライドである「高校生レストラン」と支援者を直接つなぎ持続可能な仕組みを構築するためのきっかけとして、ふるさと納税を活用した出張まごの店を平成 30 年 8 月 10 日（金）11 日（土）に開催する。

高校生の研修施設として注目されていた高校生レストランを食のまち多気町を発信するための取り組みにアップデートさせることを目的としている。

5 取組の具体的内容

・ふるさと納税を 10 万円以上多気町へしていただいた方を対象に伊勢志摩サミットの配偶者プログラムで提供されたコースを日本橋三重テラスで提供。（1日 13組限定）

- ・ いただいた寄附を原資に高校生レストランの基金を創設する。（予定）
- ・ 高校生と先生の旅費や食材費を返礼品代として支払うことで、ふるさと納税の仕組みの中で完結。
- ・ 調理からサービスまですべて高校生が行う。高校生レストランの完全再現。
- ・ 料理ごとに使われている食品を、一品毎にストーリーも交えて解説

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

- ・ふるさと納税を原資にすることで、県立高校へ町が投資していくことへの納得感を醸成。
- ・料理を提供するだけでなく、地元産品を味わっていただく機会とすることで、特産品のPRにもつながり、他の事業者への注目も集まる。
- ・あえて高額に設定し特別な時間を共有していただくことで、少数だが今後関係を気付いていける層との関係構築を狙っている。

7 取組の効果・費用

- ・26名の寄附で260万円の寄附で、そのうち先生と高校生の旅費・食材費が78万円
- ・高校生が本格的なレストランで実際に料理を提供する機会を作ることができた
- ・話題瀬もあり大手メディアからの取材も予定している
- ・伊勢志摩サミットでふるまわれた料理の継承
- ・高校生の就職先の開拓に成功
- ・多気町が応援していることを知ってもらうことで、いずれ多気町で開業したいという高校生の増加

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

- ・集まらなかった場合のリスク管理。

9 今後の予定・構想

- ・つながったファンの方に向けて、多気町へ実際に来ていただくツアーの開発
- ・ふるさと納税の使い道と関連する返礼品をさらに開発し、真のクラウドファンディングに近づけていく
- ・ふるさと納税に代わるファンとのコミュニケーションツールの確立（地域商社）

10 他団体へのアドバイス

- ・自治体には、その自治体にしかない独自の課題と独自の資源がある。
その資源と課題を結びつけることで、誰にも真似できない唯一の施策が生まれるのではないか。
それは、行政だけではできず悩みを抱えた当事者同士を巡り合わせ同じ場で考える機会が重要。

11 取組について記載したホームページ

- ・取組について掲載しているHPがある場合には、URLを記入してください。